

アンケート

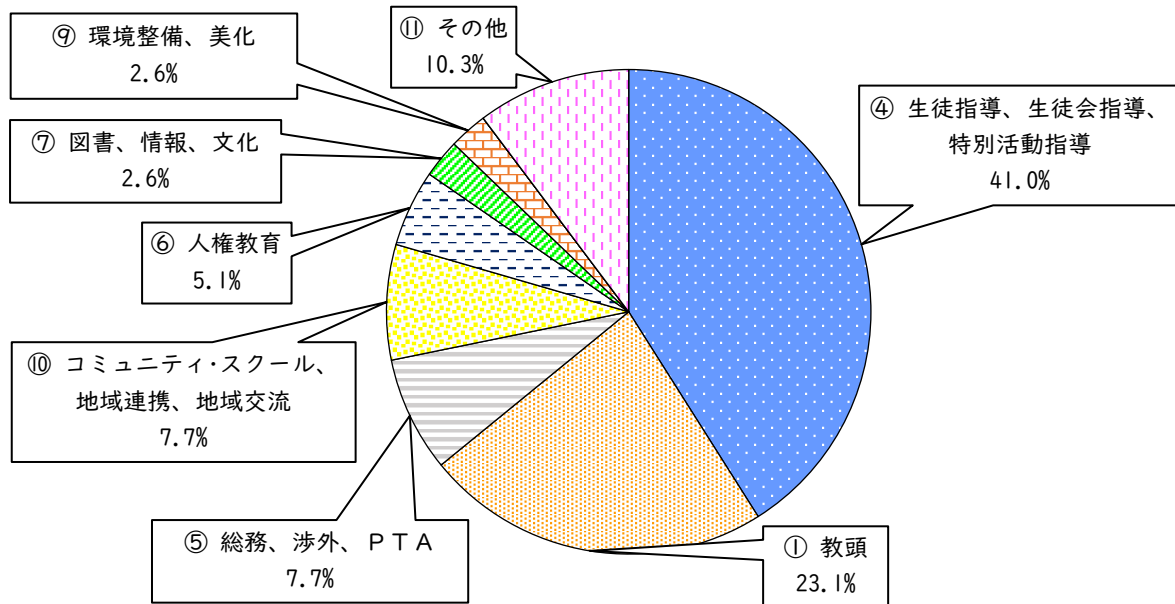
以下の集約において、「(39校中)」に示す数値は、複数回答可の質問において、それぞれ該当する旨の回答をした学校の割合である。各項目の割合は、左が令和5年度、右が令和4年度の数値を表している。

1. 「本事業」の主担当者の役職・校務分掌等を1つ選択してください。

① 教頭	23.1%	23.3%
② 教務	0.0%	2.3%
③ 進路指導、キャリア教育	0.0%	0.0%
④ 生徒指導、生徒会指導、特別活動指導	41.0%	37.2%
⑤ 総務、渉外、PTA	7.7%	7.0%
⑥ 人権教育	5.1%	4.7%
⑦ 図書、情報、文化	2.6%	0.0%
⑧ 保健体育	0.0%	0.0%
⑨ 環境整備、美化	2.6%	0.0%
⑩ コミュニティ・スクール、地域連携、地域交流	7.7%	14.0%
⑪ その他	10.3%	11.6%

主担当者のうち16名41.0%(前年度比+3.8%)が④生徒指導、生徒会指導、特別活動指導担当者である。①教頭は9名23.1%(前年度比-0.2%)である。  
また、⑩コミュニティ・スクール、地域連携、地域交流担当者が本事業の主担当を担っている割合が昨年度より減少した。

(39校中) (43校中)

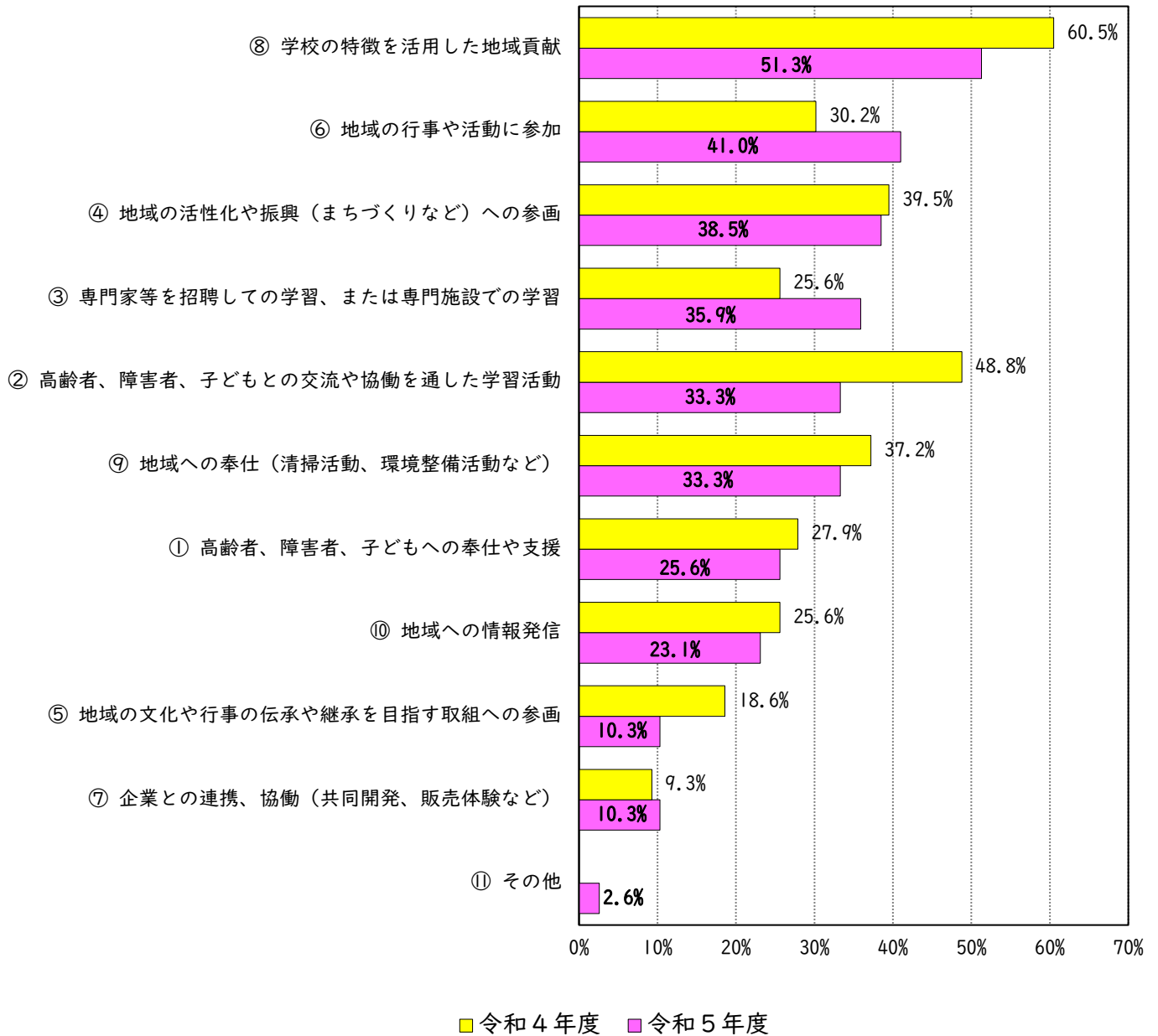


2. 「本事業」及び「地域と共にある学校づくり」全般（以降「全般」）において、どのような取組をしましたか。あてはまるもの全てを選択してください。

取組	本事業		全般	
	令和5年度	令和4年度	令和5年度	令和4年度
① 高齢者、障害者、子どもへの奉仕や支援	25.6%	27.9%	30.8%	37.2%
② 高齢者、障害者、子どもとの交流や協働を通じた学習活動	33.3%	48.8%	53.8%	58.1%
③ 専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習	35.9%	25.6%	51.3%	34.9%
④ 地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画	38.5%	39.5%	46.2%	48.8%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組への参画	10.3%	18.6%	23.1%	30.2%
⑥ 地域の行事や活動に参加	41.0%	30.2%	66.7%	53.5%
⑦ 企業との連携、協働（共同開発、販売体験など）	10.3%	9.3%	23.1%	23.3%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	51.3%	60.5%	71.8%	76.7%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動、環境整備活動など）	33.3%	37.2%	56.4%	60.5%
⑩ 地域への情報発信	23.1%	25.6%	33.3%	32.6%
⑪ その他	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%

(39校中) (43校中) (39校中) (43校中)

⑧学校の特徴を活用した地域貢献 51.3%、⑥地域の行事や活動に参加 41.0%、④地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画 38.5%という順になっており、地域とのつながりを深める取組が多く为学校で行われている。また、③専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習 35.9%(前年度比+10.3%)、全般で 51.3%（前年度比+16.4%）となっており、少しずつではあるが、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて前進している。



### 3. 「本事業」及び「全般」の取組は、年間、のべ何日活動を実施しましたか。

	合計	平均
本事業	2,796 日(昨年度 2,815)	71.7 日(昨年度 65.4)
全般	3,389 日(昨年度 3,562)	86.9 日(昨年度 84.9)

合計日数が減少しているのに平均日数が増加しているのは、県立学校数が43校から39校に減少していることが考えられる。

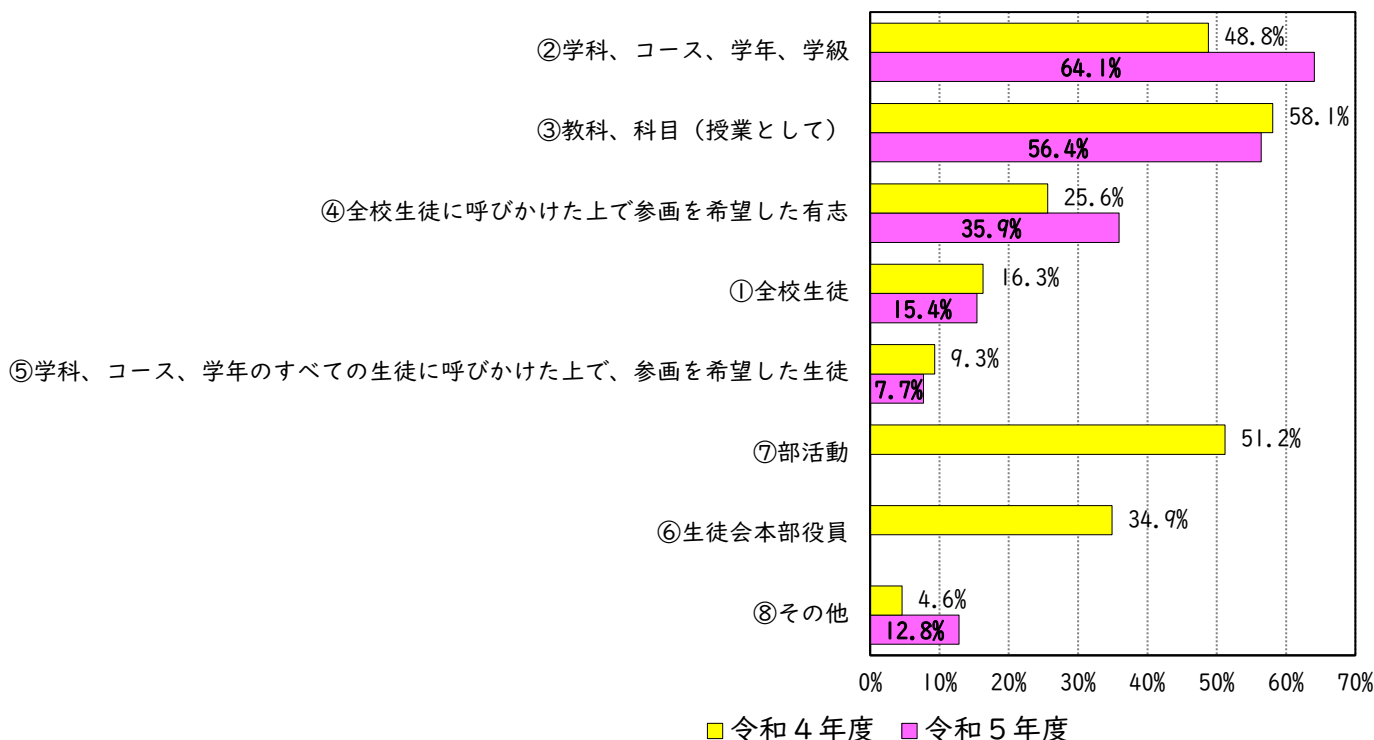
4. 「本事業」及び「全般」の取組に関わっている生徒の立場は、次のどれに当たりますか。あてはまるものを全て選択してください。

	本事業		全般	
① 全校生徒	15.4%	16.3%	17.9%	25.6%
② 学科、コース、学年、学級	64.1%	48.8%	74.4%	58.1%
③ 教科、科目（授業として）	56.4%	58.1%	59.0%	58.1%
④ 全校生徒に呼びかけた上で参画を希望した生徒	35.9%	25.6%	48.7%	30.2%
⑤ 学科、コース、学年すべての生徒に呼びかけた上で、参画を希望した生徒	7.7%	9.3%	12.8%	20.9%
⑥ 生徒会本部役員		34.9%	46.2%	55.8%
⑦ 部活動		51.2%	38.5%	58.1%
⑧ その他	12.8%	4.6%	5.1%	6.9%

(39 校中) (43 校中) (39 校中) (43 校中)

②学科、コース、学年、学級 64.1%（前年度比+15.3%）、③教科、科目（授業として）56.4%（前年度比-1.7%）と、学科や教科に関わる取組が高い数値を示している。社会に開かれた教育課程の実現においても良い傾向にあると考える。また、新型コロナウイルス感染症の5類感染症以降に伴い、地域の方々と協働する機会も前年度に比べて増加していることも1つの要因と考えられる。

今後も教育課程を社会に開くことにより、社会総掛かりで児童・生徒を育むこと及び地域と学校が課題を共有し、その解決に向けて、地域の活性化に資する活動を行うことで、地域創生を担う将来の人材育成を図ることを目的として本事業を推進していただきたい。



5. 「本事業」及び「全般」の取組に関わった生徒数を、「のべ人数」でお答えください。

	合計	平均
本事業	11,891人(昨年度 10,014)	304.9人(昨年度 232.8)
全般	21,435人(昨年度 15,540)	549.6人(昨年度 355.9)

6. 「本事業」及び「全般」の取組を通して、生徒にどのような力や意識が身に付くことを期待しましたか。あてはまるものを全て選択してください。

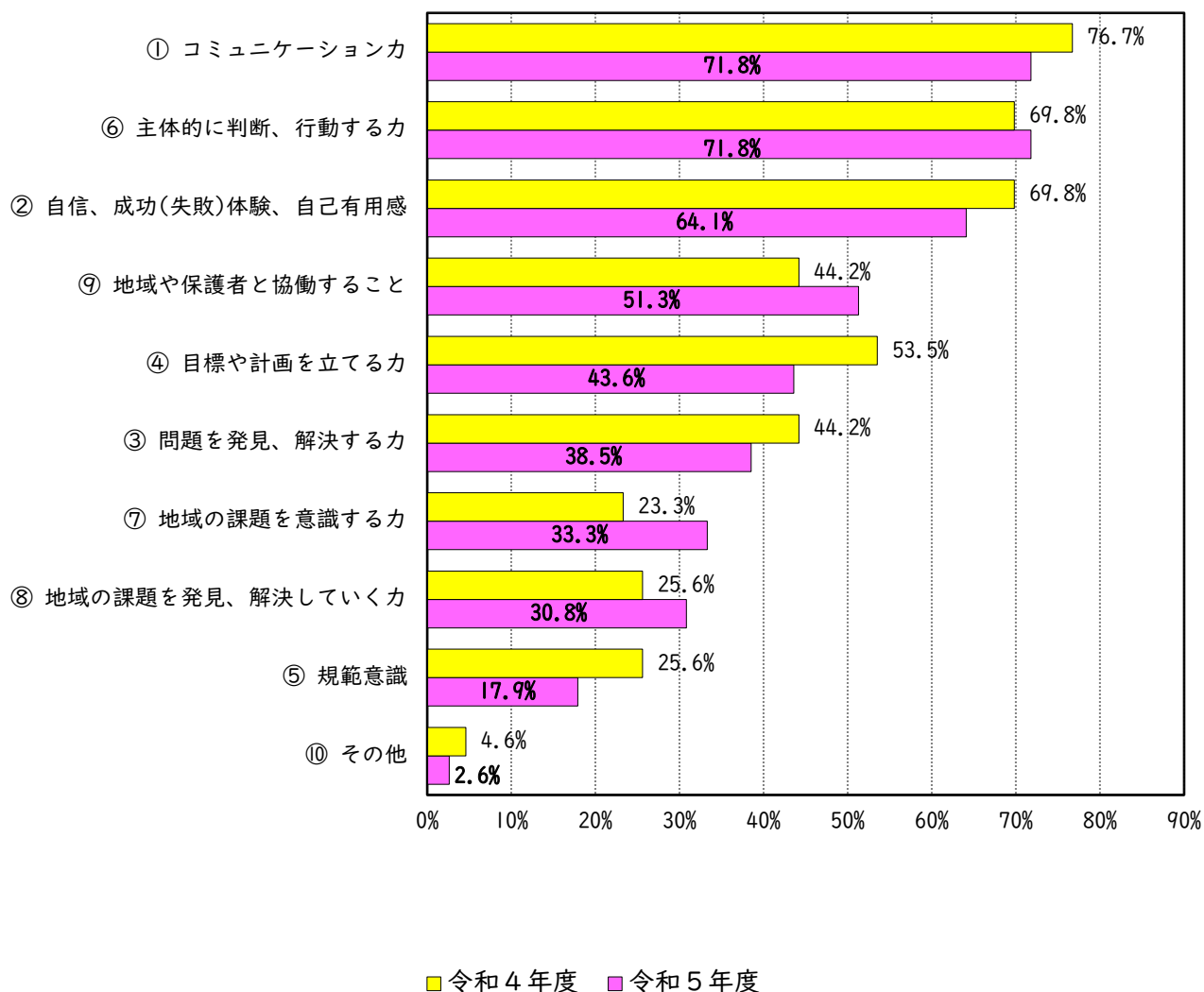
	本事業		全般	
	(39校中)	(43校中)	(39校中)	(43校中)
① コミュニケーション力	71.8%	76.7%	82.1%	86.0%
② 自身、成功(失敗)体験、自己有用感	64.1%	69.8%	79.5%	76.7%
③ 問題を発見、解決する力	38.5%	44.2%	46.2%	55.8%
④ 目標や計画を立てる力	43.6%	53.5%	69.2%	55.8%
⑤ 規範意識	17.9%	25.6%	28.2%	32.6%
⑥ 主体的に判断、行動する力	71.8%	69.8%	74.4%	83.7%
⑦ 地域の課題を意識する力	33.3%	23.3%	51.3%	41.9%
⑧ 地域の課題を発見、解決していく力	30.8%	25.6%	38.5%	34.9%
⑨ 地域や保護者と協働すること	51.3%	44.2%	59.0%	60.5%
⑩ その他	2.6%	4.6%	0.0%	2.3%

(39校中) (43校中) (39校中) (43校中)

多くの学校が①コミュニケーション力 (71.8%)、⑥主体的に判断、行動する力 (71.8%)、②自信、成功(失敗)体験、自己有用感 (64.1%) が身に付くことを期待して本事業の取組を実施している。

⑨地域や保護者と協働することについて 51.3% (前年度比+7.1%) と増加している。また、⑧地域の課題を発見、解決していく力についても 30.8% (前年度比+5.2%) と増加していることから、各校において、地域とのつながりを大切にしている様子が窺える。

今後も、生徒たちに地域課題についても目を向けさせ、地域の方々と協働することを通して、「学校を核とした地域づくり」の視点を生徒が意識し、考えられる取組を展開することを大切にしてほしい。



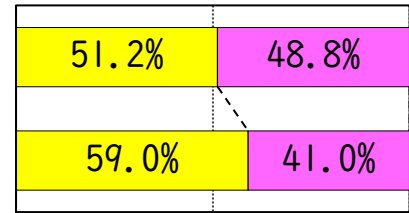
7. 「本事業」の取組を行うにあたり、その内容（生徒の教育課題や身に付けさせたい力も含めて）を学校運営協議会において協議しましたか。

① 協議した	59.0%	51.2%
② 協議していない	41.0%	48.8%

(39校中) (43校中)

学校運営協議会において共有された「育てたい児童・生徒像」を達成するために、本事業の取組をどのように行っていくのかについて、学校運営協議会で協議し、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を図ってほしい。

令和4年度



令和5年度

0.0% 50.0% 100.0%

■①協議した ■②協議していない

8. 「本事業」及び「全般」をとおして、6. の力や意識を身に付けさせることができましたか。

	本事業	全般
① できた	48.7%	56.4%
② どちらかといえばできた	48.7%	43.6%
③ どちらかといえばできなかった	0.0%	0.0%
④ できなかった	2.6%	0.0%

④できなかった  
2.6%

②どちらか  
といえばできた  
48.7%

①できた  
48.7%

①できた(48.7%)、②どちらかといえばできた(48.7%)であり、ほぼ全ての県立学校が生徒に身に付けさせたい力や意識を身に付けさせることができたと回答している。できなかったと回答した学校についても、一定の成果を得られたことが実施報告書から読み取ることができる。

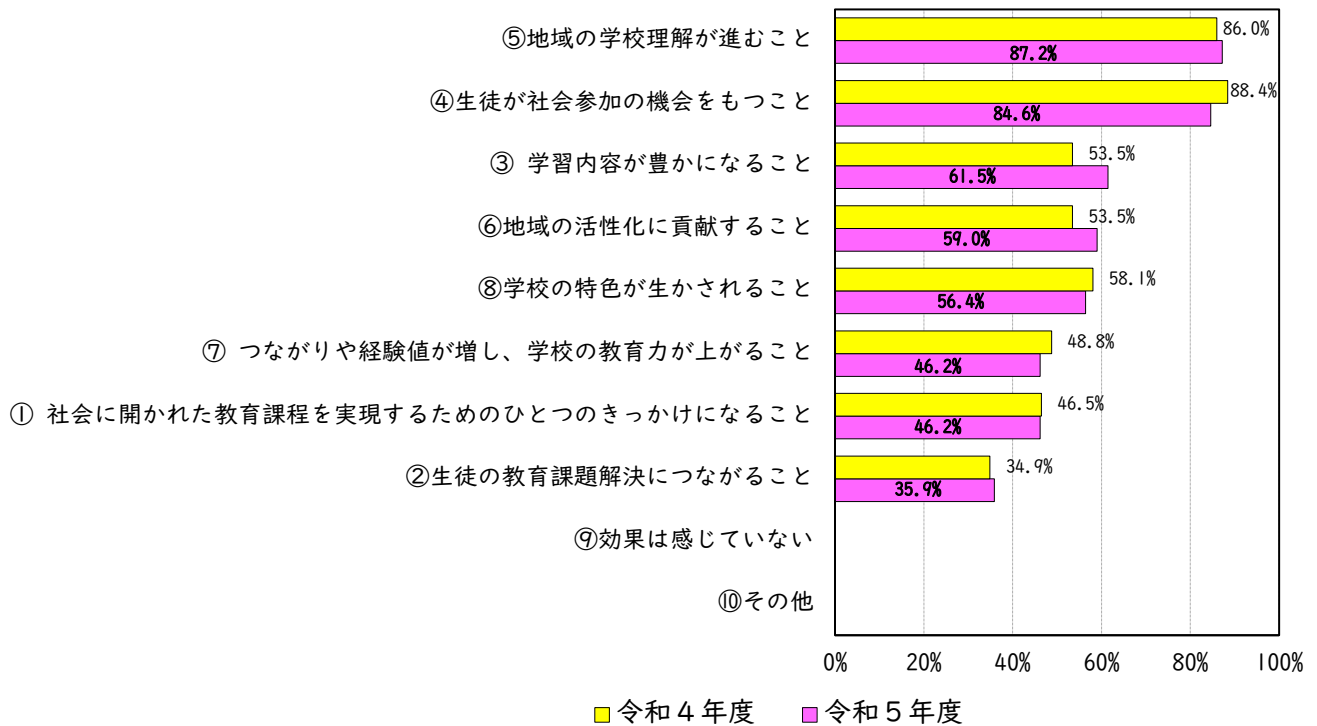
生徒に身に付けさせたい力や意識に迫ることのできる取組になっていたかどうかについて、年度末に点検したり、学校運営協議会において評価したりし、次年度の取組の改善につなげてほしい。

9. 「本事業」を実施したことによる、学校及び生徒への効果は何であると思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 社会に開かれた教育課程を実現するためのひとつのきっかけになること	46.2%	46.5%
② 生徒の教育課題解決につながる	35.9%	34.9%
③ 学習内容が豊かになること	61.5%	53.5%
④ 生徒が社会参加の機会をもつこと	84.6%	88.4%
⑤ 地域の学校理解が進むこと	87.2%	86.0%
⑥ 地域の活性化に貢献すること	59.0%	53.5%
⑦ 職員のつながりや経験値が増し、学校の教育力が上がる	46.2%	48.8%
⑧ 学校の特色が生かされること	56.4%	58.1%
⑨ 効果は感じていない	0.0%	0.0%
⑩ その他	0.0%	0.0%

(39校中) (43校中)

多くの学校が本事業の実施において、⑤地域の学校理解が進むこと④生徒が社会参加の機会をもつことに学校及び生徒への効果があると考えている。また、③学習内容が豊かになること、⑥地域の活性化に貢献すること等、本事業を通じて地域とのつながりを大切に、学習内容が豊かになるように取組を進めている。今後一層、「社会に開かれた教育課程」実現につながるような教育課程に関連付けた取組の展開、また、学校運営協議会で共有された児童・生徒の教育課題解決につながる取組の展開を進めてほしい。そのためにも、本事業の取組を学校運営協議会で協議し、活動内容をブラッシュアップしていくことが必要である。

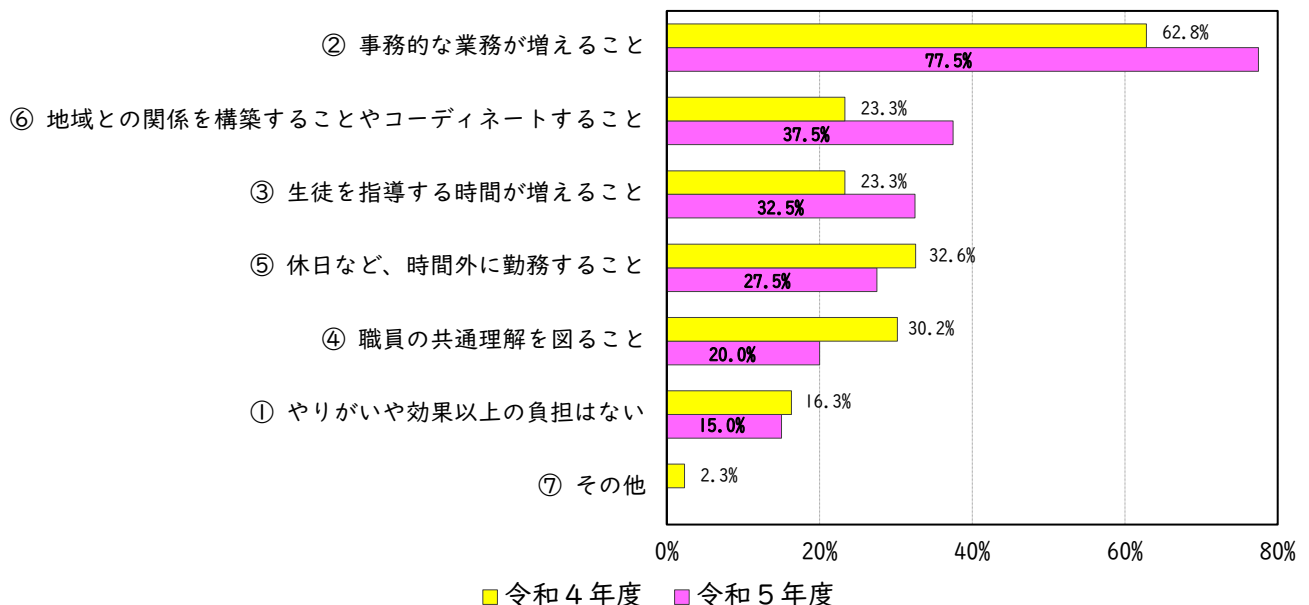


10. 「本事業」のやりがいや効果以上の負担があるとすれば、それは何であると思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

① やりがいや効果以上の負担はない	15.0%	16.3%
② 事務的な業務が増えること	77.5%	62.8%
③ 生徒を指導する時間が増えること	32.5%	23.3%
④ 職員の共通理解を図ること	20.0%	30.2%
⑤ 休日など、時間外に勤務すること	27.5%	32.6%
⑥ 地域との関係構築（維持）やコーディネート	37.5%	23.3%
⑦ その他	0%	2.3%

(39校中) (43校中)

②事務的な業務が増えることの割合が高く、昨年度よりも14.7%増加した。⑥地域との関係を構築することやコーディネートすることについても昨年度より14.2%上昇しており、地域とのつながりを大切にすることにあたり、担当者が負担感を感じていることがわかる。地域協働活動推進員等の配置について研修会等を通じて促すなど、負担軽減に向けた取組が必要である。

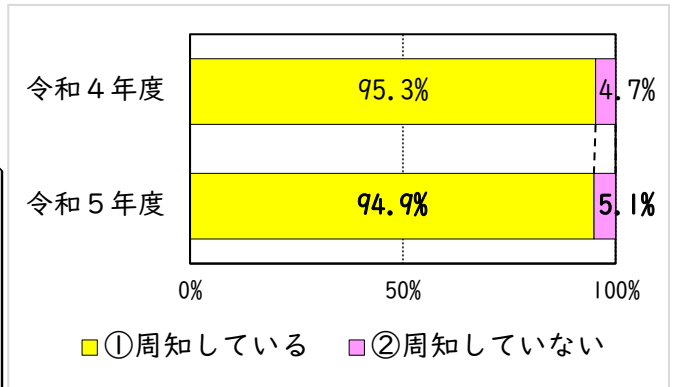


11. 「本事業」について職員に周知していますか。

① 周知している	94.9%	95.3%
② 周知していない	5.1%	4.7%

(39 校中) (43 校中)

94.9%の学校で、本事業を職員に周知した上で実施している。今後も本事業における取組を進めるに当たっては、教職員で共通理解をした上で、様々な視点から取組を見直したり、組み立てたりし、学校や生徒の実情に合った活動を展開してほしい。



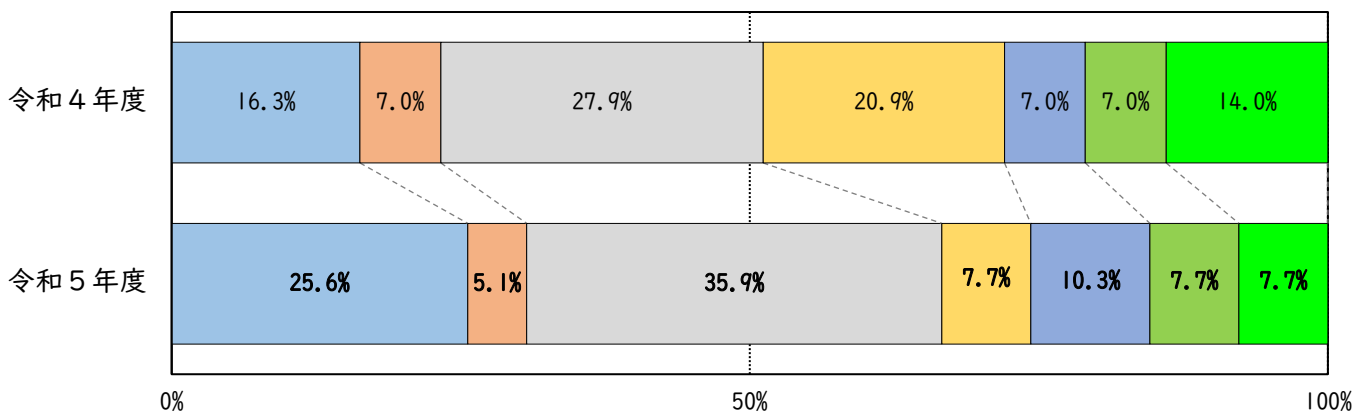
12. 「地域と共にある学校づくり」を担当する組織は、校内組織に位置付けられていますか。あてはまるものを1つ選択してください。

① 地域との連携、協働の校務分掌がある	25.6%	16.3%
② 地域との連携、協働に関する委員会等の組織がある	5.1%	7.0%
③ 特定の校務分掌の中に地域との連携、協働を担う部門がある	35.9%	27.9%
④ 地域との連携、協働を所掌する教員がいる	7.7%	20.9%
⑤ 教頭が地域との連携、協働を担っている	10.3%	7.0%
⑥ コミュニティ・スクール担当者が担っている	7.7%	7.0%
⑦ 組織もなく係員もいない	7.7%	14.0%

(39 校中) (43 校中)

地域との連携・協働を所掌する①校務分掌や②委員会等や③部門など、地域との連携、協働を組織に位置付けている学校は 66.6%であり、昨年度より 15.4%増加した。コミュニティ・スクール担当者が「地域と共にある学校づくり」を担っている割合は 7.7%と大きな変化はない。⑦組織はなく係員もいないとする学校が 7.7% (前年度比-6.3%) と昨年度より減少している。

組織的・継続的な取組を実現していくために、地域との連携、協働を継続するとともに、コミュニティ・スクール担当者も本事業に関わり、学校運営協議会において共有された「育てたい児童・生徒像」、「目指す学校像」実現のための取組を進めていただきたい。

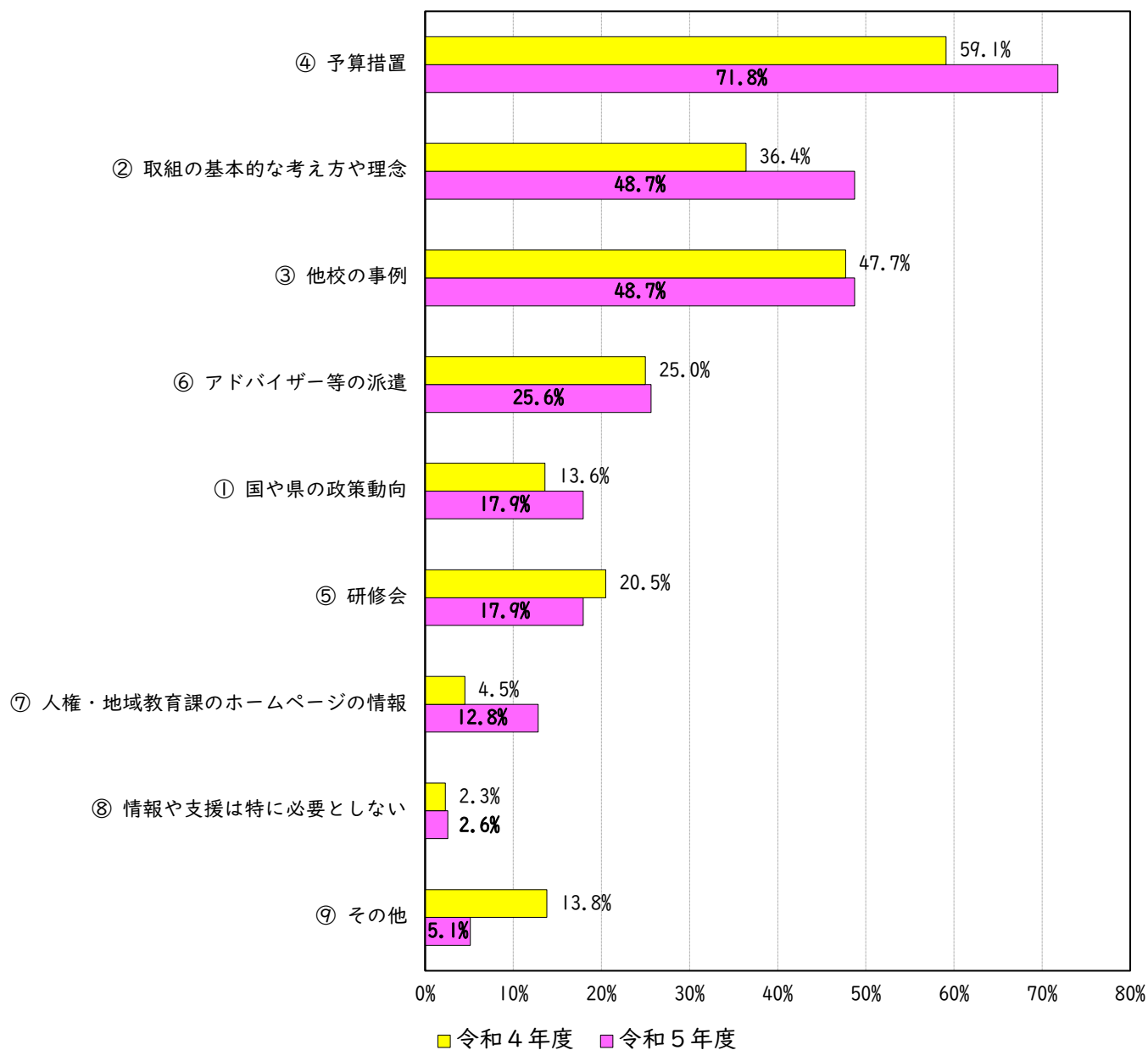


- ① 地域との連携、協働の校務分掌がある
- ② 地域との連携、協働に関する委員会等の組織がある
- ③ 特定の校務分掌の中に地域との連携、協働を担う部門がある
- ④ 地域との連携、協働を所管する教員がいる
- ⑤ 教頭が地域との連携、協働を担っている
- ⑥ コミュニティ・スクール担当者が担っている
- ⑦ 組織もなく係員もいない

13. 貴校における「地域と共にある学校づくり」を一層推進するために必要とする情報や支援は何であると考えますか。あてはまるもの全てを選択してください。

① 国や県の政策動向	17.9%	13.6%
② 取組の基本的な考え方や理念	48.7%	36.4%
③ 他校の事例	48.7%	47.7%
④ 予算措置	71.8%	59.1%
⑤ 研修会	17.9%	20.5%
⑥ アドバイザー等の派遣	25.6%	25.0%
⑦ 人権・地域教育課のホームページ情報	12.8%	4.5%
⑧ 情報や支援は特に必要としない	2.6%	2.3%
⑨ その他	5.1%	13.8%

(39 校中) (43 校中)





「本事業」に参加、参画した生徒の感想

自分の意見をまとめて表現する力、グループで協働し問題解決をしようとする力などが身についた。

① なぜ生駒市とともに探究を進めようと思ったのか。

生駒市では「キエーロ」というプランター型コンポストを市民に500円で提供している。これに興味をもち、生駒市役所を訪問し、お話を聞いた。さらに、「キエーロ」を製作している工房（ハート工房、生駒市あすか野、10人くらいのボランティアメンバーで運営）を訪問し、インタビューを実施した。

② 取組を通して、どのような力や意識などが身に付いたか。

話を聞いてみることで、新しい発見が多かった。コミュニケーション力も身についた。インターネットでは得られない詳細な情報を得ることができ、直接大人と話す重要性について実感できた。校内で周知するためのポスターづくりなど、企画力も身についた。

③ 今後どのような取組をしてみたいか。

高校にも生駒市民が多い。生駒市民ならコンポストが500円で手に入る。校内の生徒にまずはこのコンポストの利用を広めていきたい。地域貢献につなげたい。生駒市民以外にも、工房のご厚意で配布できるようにしたので、このコンポストの普及を進めたい。

④ この取組で得た経験や力を今後どのように活かしていくか。

地域にある問題を解決する経験を生かして、将来はグローバルな問題にも対応できる仕事について役立てたい。この活動で得た企画力やコミュニケーション力、行動力を生かしていきたい。

（幼稚園訪問に参加した際）身体を動かしての遊びをした際、自分たちも子どもたちに混ざって遊んでいたが、先生から「先生役の1人は子どもたちが1人になっていないかを見て欲しい」と指導していただきました。先生の側は、子どもに混ざって一緒に楽しむことも大事だけど、しっかりと子どもたちの様子や周りを見なければならぬことを実感しました。大学進学後の実習では、今回の実習で学んだことを活かしてさらに幼児教育の分野で頑張っていきたいと思います。

子どもたちにわかりやすく優しく説明すること、薬品など危険なものに気をつけること、ていねいな言葉と態度で接すること等について考え、身についた。普段、小さい子どもと話すことがないので楽しめた。

家庭クラブの活動として参加した。「たんどん広場」の活動では、普段は小さい子どもと接する機会がないために活動前は緊張していたが、活動の中で、子どもだけでなく、子どもの保護者の方と接することができて良い経験になった。

昨年からは順慶まつりについて学んできて、陣笠なども作ってきた。今年は実際に参加することができてうれしかった。順慶まつりでは、模擬店の運営を通して、一緒に参加した人、地域の人とたくさん話せたこと、交流できたことがよかった。昨年はスタンプラリーだけで、まつりの運営側になることがなかったのも、大変だったけど新鮮で楽しかった。たくさんの方が集まっているこのまつりがとても大切にされていると感じた。来年も参加したいと思う。

私はユネスコフォーラムを通じて仲間と一緒に協力し合うことの大切さを学びました。私はスライドを作ったり、台本を作ったりすることが得意ではありません。でも、同じチームの子でスライドや台本を作るのが得意な子がいて、お互いに得意不得意を補いながら練習を続けました。この体験を忘れず、今後も仲間と協力して取り組みたいと思います。

① 生徒会役員として参加した。

② 地域の人との関わりができ、コミュニケーションをとることができた。

③ 地域の人との関わりをより増やせるような取組。

④ 地域の人々との関わりを増やすための取組を生徒会として考えて、よりよい学校づくりをしていきたい。

私たち2年5組は櫛本駅を掃除しました。普段あまり関われない駅員さんや地域の方々と奉仕活動を通して深く関わったことと同時に、普段利用する駅をきれいにすることができたので、この状態を維持していけるよう意識して生活しようと思います。

中学生の時に先輩方がこの取組を行っているのを見て自分もやってみたいと思い参加しました。この取組を通して自分自身で問題を発見し、またそれを解決するためにはどうすれば良いかを考える力が身に付きました。今後もこの力を大学での学習に活かしていきたいと思います。

地域の方々と交流ができて、今後も続けていきたいと思った。

地域の皆さんと活動し、普段の授業では得られない経験ができて良かった。味間いもが地域の人に愛されていることが分かった。より多くの人に味間いものことを知ってもらう活動をしたい。商品開発の難しさ面白さを知り、食品業界に就職したいと思った。

いつもお世話になっている晩成地区の方々に感謝の気持ちを伝え、交流を深めるためにこの取組に参加しました。この取組を通して、いろいろな方と交流することができ、地域の方に支えられているということを実感することができました。これからは晩成地区のことをもっと知り、畝傍高校のことを知っていただけるような取組をしていきたいと思います。

今回初めて対面での交流を行って、オンラインで交流した時よりも交流しやすかったし、とても楽しかったです。今回交流をして感じたことは、相手の気持ちを読み取るのが難しかったことと、気持ちを読み取るだけでなく伝えることが難しかったことです。普通に伝えるだけだと相手も難しいと思ったので、ジェスチャーをつける等、自分なりに工夫してみて、できるだけ簡単に伝えるためにどうしたらいいのかと考えました。少し悩むこともあったけど、とても勉強になったと思いました。今回の交流で最後だけ、とてもいい経験になったし、これから少しでも生かしていけたらいいなと思いました。養護学校に通っている学生と交流できる貴重な機会を体験できて、すごく良かったと思いました。

学校設定科目「実学」の授業の一環で「県商マルシェ」が企画され、販売実習に取り組みました。販売実習は初めての経験でしたが、準備や実習を通じて見ず知らずの大人とコミュニケーションを取る力などが身に付いたように思います。来年度も継続してこの取組が行われると思うので、この経験をよりスキルアップした形で生かしたいと考えています。

CCC活動に参加して、ゴミのポイ捨ての多さに驚きました。特に、葛下川周辺の草むらには、予想していた以上のゴミがあり、ポイ捨てをしないように呼びかけることが大切だと思いました。清掃活動を通じて、少しでも地域に貢献できたので良かったです。

しおり作りはとても楽しいもので、図書館の人にも喜んでいただけたからやってよかったと思いました。今後は紙芝居を作って地域の方に披露してみたいです。今後は、この経験を活かして自主的に地域に貢献していきたいです。

シトラスリボンプロジェクトを通して、自分たちの通っている学校や地域を良くしていきたいという意識が高まりました。今年度は学校医の先生の病院にシトラスリボンをお届けしましたが、今後は市役所や図書館、老人福祉施設などにもお伺いして、すべての人がお互いを尊重し、穏やかな気持ちで過ごせる社会をめざして、引き続き取り組んでいきたいと思っています。また、その他にも募金をはじめ、ボランティア活動など地域社会に何か貢献できるように積極的に取り組んでいきたいと思っています。

通学路清掃に参加し、日頃通学している道路がきれいになってうれしかった。

将来の仕事に必要な資格のため、合格に向けて計画的にしっかり取り組めた。この経験は社会に出ても自信に繋がると思います。

アンケート結果から考察を行い、ターゲットを明確にしてマップやポスターを作成して地域の活性化につなげることで探究活動を深めることができた。

施設の方と打合せを重ね、保育実技の知識や技能、表現を深めることができた。また、3学期以降の活動契機となる刺激や意欲となり、保育や保育者の役割について深く考え、進路選択の参考になった。

今回の保育所訪問ではキーボード演奏等を実施した。司会原稿の作成は自分たちでできなかった。今後は、自分たちで原稿を考え、より充実した訪問にしたいです。

クリスマスリース作りのボランティアに参加しました。きっかけは小さい子どもと接することに興味があったのと部活動の顧問の先生に勧められたことでした。活動を通して、小学生にわかりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考え、わかりやすく伝える力が身についたと思います。来年も参加してみたいと思います。

地域の人や他の家の方に自分の作品を観てもらって「いい作品だね」と褒めてもらえてうれしかったです。後輩たちにも観てもらうことができた。今後はもの作りの道へ進むので、技をもっと磨いていきたいです。

あん摩を知らない人への施術は緊張もあったが、施術するうちに参加者がリラックスしていくのを体感し、あん摩の効果や魅力を伝えられたことに安心した。とてもやりがいを感じ、取組に対して達成感を得ることができたとともに、自身の技術をもっと磨きたいという意欲をもつことができた。

デフリンピックについて自分なりに周知していきたい

いちごを植えたのが楽しかったです。初めていちごを植えました。先生と一緒に水やりも頑張りました。出耒田いちごは、お家へ持って帰って食べました。おいしかったです。他の野菜も植えてみたいです。

高等部の農業の授業で作った野菜を地域の方々へ販売する取組に参加しました。元々おしゃべりが好きなので、営業トークに生かせることができると良いなと思いながら参加しました。この取組で、しっかり笑顔で挨拶をすることと笑顔を返してもらえたこと、商品について丁寧に説明をすることでじっくり聞いて買ってくれたこと、買っていただいたあとに感謝されたことがとてもうれしかったです。説明する自分自身のトーク力に、さらに自信がつけました。

保育園の年長の子どもたちと一緒にサツマイモ掘りを体験できて楽しかったです。最初は緊張しましたが、子どもたちがお兄ちゃんと声をかけてくれて嬉しかったです。

ヘルマンハープやギターの演奏会を行い、来ていただいた演奏者の方々と一緒に音楽を楽しむことができた。卒業後の生活を豊かにするための余暇活動につなげていきたい。

またやってみたい。

地域の人にしおりを渡すのは緊張したが、渡せてよかった。人と話すのはドキドキするけど、頑張ろうと思う。

学校で窓拭きを練習して、自信をもって他の場所で取り組むことができた。褒められて嬉しかった。来年も取り組みたい。

この取組を通して、コミュニケーション力や応用する力が身に付いた。これからも各施設で演習をして、その経験を就労に生かしていきたい。

子どもに触れ合うことはめったにないため、貴重な機会と考えて参加した。子どもたちにゲームや遊びのルールをうまく伝えられるか不安だったが、丁寧にわかりやすく伝えることでうまくできた。今後は放課後の学習支援やお楽しみ会の企画を考えたい。

取り組んでみて、やりがいや地域とのつながりを感じた。

自分たちの演奏でとても喜んでくださったことが大変うれしく、この取組を行ってよかったと感じた。今後も、たくさんの方に喜んでもらえるような音楽作りを目指していきたい。

保育士を目指して日々勉強に励んでいる中、実際にこども園や保育園の園児たちと関われる機会はとても貴重です。例えば、園外保育を念頭に子どもたちにとって危険なこと、保育士が注意すべきこと等を学ぶことができる機会になり、よりいっそう保育について学ぶ意欲が深まりました。交流会では、ゲームやお芋掘り等の体験を通して、園児との関わり方や興味関心の高め方などを学ぶことができました。また、障がい者施設交流では、障がいをもつ方々の施設での仕事を見せてもらいながら一緒にブルーベリーの収穫体験もして、ブルーベリーが今後どのようになっていくのかなど、楽しく学ぶことができました。保育に携わる際に必要な特別支援の在り方についても考えることができました。今後は、これらの体験を活かして、実習などで園児たちと積極的に関わっていききたいです。